

令和6年度第3回柴田町新図書館建設検討委員会 議事概要

日時：2024/10/11 14:00～16:00

場所：保健センター4階 多目的ホール

出席者：平岡 善浩、大槻 浩子、熊谷 一彦（欠）、男澤 勝由、金城 幸子、
羽賀 幸子、添田 椋、田中 亮（欠）、佐藤 祥多、玉渕 博之
（敬称略）

1 開会

2 開会のあいさつ

平岡委員長より

3 議事

確認事項

事務局より、前回の議事より要点を説明。

協議事項

1) 新図書館基本計画（案）について（説明：株式会社山下設計東北支社）

○平岡委員長

ご説明ありがとうございました。では今ご説明いただきました内容につきまして、ご意見ですとか、ご質問ありましたらお願いいたします。

○男澤委員

39ページの「障害のある方」の「害」が漢字になっているが、柴田町のホームページはひらがなを使っているので統一して欲しい。

41ページの監視カメラですが、「入口に」と限定してしまうのはどうかと思います。名取市の基本計画だと防犯カメラという言葉を使っているので、防犯カメラという表現のほうがいいかと思います。

また、名取市図書館には開架書庫というスペースがありまして、棚の間隔が狭く、段数も多いもので、本の冊数が多くできるものがありますので、ぜひご検討ください。

12ページの図2-1に船岡駅がありますが、槻木に関する記述が少ない気がします。また、阿武隈急行線もありませんので、追加していただければと思います。

槻木分室についての記述もありませんので、入れていただければと思います。

細かいことですが以上です。

○平岡委員長

男澤委員から出ました槻木分室について、現在の事業を今後どうしていくのか、継続なのか改善していくのか、あるいは学校図書室についても役割であるとか図書館のかかわり方とか、柴田町の図書館ネットワークとしての記述が抜けているのではないかと感じました。

○大槻副委員長

生涯学習センターの中の一室を図書館として管理していて、司書が一人常時いらっしゃるの、相談事などもできて、私にとってはとても利用しやすい場所でした。ですが、そこで長時間読書するという利用の仕方はありませんでした。船岡に新しい図書館ができて、船岡まで行かなくてもいいよというお年寄りの方は多いと思いますので、槻木分室も単なる長テーブルとパイプ椅子ではないような設備にすることも考えていただきたいと思います。

学校図書室に対するアウトリーチを柴田町図書館ではやっています。蔵書数のところに開架、閉架、学校図書のところ、学校図書のところに数字が載っていません。各小学校の朝読書で読む図書など必要なものになりますので、そこを新図書館になってもフォローしていただければと思います。

○平岡委員長

今お話ししていただいているのは、新図書館の建物には直接的には関与しませんが、新図書館ができた後の仕組みや運営など物理的なものではないことも入れていかないと抜けていってしまうのでとても大事なところだと思います。

○山崎アドバイザー

おっしゃる通りソフトの事業が計画の中に入っていることは必要なことだと思います。一部ハードにもかかわってくる内容もあります。例えば、学校用の図書であれば、閉架書庫の中に学校等図書専用の書棚を設置するなど。槻木分室と新図書館の関係も整理しておかないと、そこだけ取り残された印象を受けてしまうので、記述が必要だと思います。また、いまの計画書は全域サービスの記述がありません。今だとICタグなどICTを活用した全域サービスなどもありますので、そういった部分の記述もあると良いかなと思います。

○佐藤委員

今回頂いた基本計画は、前回の委員会の段階で出していただいたほうがいいと思いました。今回議論してもう一度修正したものでコンセンサスをとるということが去年基本構想を策定した時のプロセスだと思います。

基本構想を昨年度策定しましたが、基本計画は基本構想をより精度を高めていくものだと思っていました。この計画に書かれているコンセプトが、昨年度まで検討

していた基本構想の基本コンセプトと整合がとれているのかわかりませんでした。少し抜けている考え方がありました。これではワークショップでもう一度コンセプトを作り直したような表現になっていると感じました。

43 ページの協働の言葉の使い方が間違っていると思います。関連団体との連携についての説明がありましたが、ここの記述もこの内容であれば協働ではなく連携だと思います。まちづくり基本条例に協働の意味が載っているのので、一度読んでいただければと思います。

先ほどお話出しましたが、管理運営についての話が少なすぎるように感じました。玉淵委員もおっしゃっていましたが、どのぐらいの人がどのぐらいの事業に必要なのかということもありますので、もう少し記述があってもいいのかなと思います。

ぎりぎりのタイミングでこういうことと言って申し訳なかったのですが、自分の名前が載る基本計画なので、このままではということもあってお話しさせていただきました。

○玉淵委員

最近の公共施設は地域課題を解決するために作られるものだと思うのですが、計画の中の運営方針というところがすごく薄い印象です。この計画はあくまで建物を設計するためのものということもあるとは思いますが、先ほどアドバイザーからもありましたがハードとソフトは対になっているものなので、そこが絡み合っただけで始めて図書館の機能が地域住民に向けられ、サービスが行われていくものだと思います。新図書館になって、今の図書館の5倍の大きさになるので、今のままのやり方で運営できるかといったらそうはいかないと思います。できるだけ仕組みづくりや運営体制に対するアプローチの仕方については、基本計画の中でなくても別に作る必要があると思います。

先ほど話の中ででた地域課題という言葉も、計画書の中で出てきていないようですので、ぜひ入れていただければいいのかなと思います。

○平岡委員長

今佐藤委員と玉淵委員からお話がありましたが、協働のとか住民参加のとか地域に対しての役割については、基本構想の中で出てきていましたが、計画書の中ではあまり出ていませんでした。

○金城委員

子ども読書推進会議の代表としてきております。子ども読書推進会議では、今年度はアンケートを実施しています。小学生、中学生、5歳児の保護者に対して行っています。不読率という課題がありますが、町の事業でブックスタートというもので、4か月検診のときに絵本を2冊プレゼントしています。それに関して数値的にわずかではあります読み聞かせを0歳とか幼少期のうちに実施する家族が増えて

きています。そういう芽が伸びているところに対して新図書館ができてより推進していけるということが必要だと思えます。

基本構想の中で蔵書の内訳について一般書と児童書の割合や絵本の割合などを載せていましたが、基本計画では、絵本の割合が抜けていました。それが、不要だから抜けたのか、変わったから抜けたのかそういうところがわかりませんでした。

小さなことかもしれませんが、今推進しようとしている内容でもありますので、計画書の中でしっかり検討いただくことも必要なのではないかと思います。

○平岡委員長

絵本の割合を多くするということが基本構想の中でありましたが、そのことについて計画策定段階で何かございましたでしょうか

○委託業者

児童書の中での割合について基本構想の中で載せておりましたが、今回の計画では抜けてしまっていましたので、載せたいと思います。

○平岡委員長

私もあとで指摘しようかと思っていましたが、図書館要覧をしっかりと見ていただいていますでしょうか。今ここに書いてある根拠は、県としての平均がとか外の基準での説明となっていますが、柴田町として積み上げてきた本の扱いが要覧の中に出ていますし、司書の方にもヒアリングしていると思いますが、予算をとってまた買い足していくものなので、柴田町ならではの本の買い方とか検討できるのではないかなと思いました。

○添田委員

先ほどおっしゃっていましたが、学校図書室用の図書が何冊とか書いていなかったの、小さいうちから図書館の本を読むのは大切だと思うので、しっかりと明記したほうがいいと思いました。

○平岡委員長

学生さんの目線では、計画で気になるころはありませんでしたか。

○添田委員

学生としての要望としては、図書館の開館時間と休館日について、平日は10時から19時までですが、学生からするともう少し長い時間やってほしいと思いました。大学の図書館が20時までやっているの、開館時間が19時までだと学校の図書館でいいやと思う人がいると思うので、時間をもう少し長くすると大学生の利用が増えるのではないかと思います。

○平岡委員長

現在と同様というのは、町との話し合いで決まったのでしょうか。

○事務局

開館時間については、委託業者との打ち合わせの中でも議論しました。開館時間については、後ろに伸ばすほかにも、朝早く開けることについても要望がありました。新図書館になってからの住民のニーズについてもまだはっきりとわからない部分もありますので、開館当初は今までと同様の時間として、要望が出てきたら検討することといたしました。また、現在の司書の数なども考慮して今のところ現状維持という形で載せさせていただきました。

○平岡委員長

今みたいな議論があってこのように決まったというような記述があってもいいと思います。いまより1時間、2時間伸びたら建築に係る要件なども変わってくるかもしれません。運用上の柔軟性などについても記述があってもいいのかなと思います。

○羽賀委員

新図書館は町の賑わいを高めるために住民と行事を行っていくと思いますが、その中でボランティアを募集しながら事業の運営をするようになると思います。そのため、ボランティアについての計画や方針なんかもあると、住民の得意な分野でボランティアに参加したいという方が増えてくるのではないかと思います。一般住民が参加しやすい形で募集していただけるとありがたいと思います。

親子で参加したいというかたも増えてくると思います。今図書館がある伝承館が子どもの遊び場になるという計画があったと思いますが、そこを利用した親子が図書館も利用していくような流れが作れると良いと思います。

車のスペースがたくさんあるといいですが、自転車や歩いてくるかたが多いと思いますので、駐輪所の場所など工夫していただけると良いかと思いました。ふるさと伝承館と新図書館を行き来しやすいような動線を作れば良いと思います。

○平岡委員長

羽賀委員からボランティアのお話がありました。既存の図書館においても、男澤委員などボランティアで活躍している方がいらっしゃいます。要覧を見ると図書館のボランティア活動についても書いてあります。現在協力いただいているボランティアと今後新図書館ができて新しく求められるボランティアなどその計画について詳しく載せたほうが良いのではないかとのご意見でした。

二つ目のお話で、隣のエリアの郷土館のエリアがあります。まだこれから設計に入る段階ということです。今回新図書館を計画する上で、住民アンケートやワーク

ショップを行いました。図書館の規模が小さくなっていくにあたって、切り離さなければならなかった機能は何だったのかをはっきりしておかなくてはならないと思います。柴田町の複合エリアの考え方の図はいい図だと思います。この考え方をはっきりさせるために、図書館に入れられなかった機能をはっきりさせて、BやCに入れますというように計画しなければいけないと思います。もう少し細かく言うと、しばたの郷土館の機能としてすでにこういう機能があるということがわかっているの、そういうのがあれば、図書館にはいらぬよね、という議論があつて然るべきかと思つています。この図のAからEの施設の関係性を基本計画の段階ではっきりさせておかないとバラバラになってしまいます。図書館が先行しているので、その機能のすみ分けについてももう少し計画の中で計画していくべきだと思つています。施設同士の動線やその安全性などについても気になるところなのかなと思つています。

○大槻副委員長

6ページの基本構想の基本コンセプトが5つあります。24ページにある基本コンセプトの5つはどこから出てきたのかなとはつとしました。基本構想では、知る・学ぶ・究めるなどの基本サービスが充実した図書館となっています。こちらのほうが基本コンセプトとしては妥当なのではないかなと思つています。この内容だと基本構想の内容より痩せているような印象があります。平岡委員長がおっしゃったようなしばたの郷土館との関わりも抜けてしまつていないかなと思つています。

○平岡委員長

30ページに記述がありますが、しばたの郷土館に多目的コーナーや喫茶スペース、子ども遊び場はいるという想定が出てきています。設計がまだ決まつていないということですが、全部が全部ぼんやりした形で進むのも良くありませんので、図書館としてはこれで決めますので、あとはそちらで調整お願いしますという計画でいいのかなと思つています。

○男澤委員

23ページの「図書館に用がない人でも」という表現について、ざらりと引っかかるような印象が受けました。

ボランティアの代表という立場の意見として、6-3の町民が参加する運営の仕組みづくりについて、ボランティアと言つていますが、なんでボランティアしているかという人それぞれ違つたと思つています。中には自分の考えを押し付けたくてボランティアしている人もいます。正義感だけで突つ走つている人もいます。世間一般のイメージだとボランティアしている人はいい人だということもあります。私もできることは出来る範囲でやろうという気持ちであります。なので、ボランティアにお願いすれば何とかできるというわけではなく、とても苦勞すると思つています。学校

ボランティアにも参加していますが、司書さんはとても苦勞していると思います。ボランティア代表としては、ボランティアを活用することを考えているのであれば、今後もこういう町民を含めた形での検討をしていただければと思います。

○玉淵委員

ボランティアの話が出ましたが、まさにその通りだと思います。ボランティアの印象として人のためにというイメージがありますが、実際には自分のためにやるものです。そういう方々を全体としていい方向にまとめていくのは、別の立ち位置の方がいないと、ボランティアにお任せしていますではうまくはいきません。少なくともコーディネーター的な方を位置付けてジャンルの違う地域の歴史や文化など複合的な要素がありますからそこを結び付けていけるような、トータルで考えられる人が必要なのではないかなと思います。これを計画として出すのであれば、先ほど話した通りハードとソフトは一体なので、検討していきますという記述が必要だと思います。

○平岡委員長

すでに活動していただいている方がいらっしゃいますし、コーディネーターの役割をどこが担うのかということなどを視野に入れて考えていく必要があるのかなと思います。

そろそろ時間なので、私のほうからまとめて意見を述べさせていただきます。

全体的な意見として、もう少し加筆修正の必要があるのかなと思います。正直に言うと足りない、抜けているところがあります。この段階のものを2回目に出していただけるとよかったです。今回もう最後ですので色々申し上げます。

今回基本計画ですが、次のステップは基本設計で物理的な建物設備、設備のことになります。設計条件としてこれはこう考えましたというものがこの計画では見えてきません。ある程度はありますが、まだいろいろあると思います。

2点目として内容がワークショップの意見に全振りされすぎているように感じます。住民ワークショップも大事ですが、プレイスデザインワークショップや住民アンケート、基本構想へのパブリックコメント、職員ワーキンググループなどいろいろな意見が出ているはずで、住民ワークショップと合致しているところや合致していないところがあります。その部分が必要なんじゃないかなと思いました。

1-3-3の関連事業の実施実績と出ています。いろいろな意見聴取を1年以上かけてやっていますので、その考えはどうかかなというところでは。

2章ではまちづくり事例と図書館の関係、連携することができる地域資源の検討ということで挙げられています。それとそれが組み合わせるときに柴田町の図書館としてこういった計画が可能なのかというところまで研究して欲しいと思います。少なくともしばたの郷土館や城址公園広場の事業など連携できるものは何なの

かという整理がないと核としたまちづくりというところが見えてこないと思います。

3章の町民ニーズの把握というところが、ワークショップに全振りされています。町民ニーズといっても他にもいろいろとありますので、そこでの比較整理があってもいいと思います。また、実際司書や担当課の皆さまのニーズの把握など運営されている方のニーズなどいろいろと出てきて、実際の人員の予算の話なども出てきていいのかなと思います。

5章から建築計画の話になるとと思います。全体的にもうちょっと書いてもいいのかなと思います。2週間前に私の学生に図書館設計の課題を出しました。青葉山に5万冊の蔵書冊数で、なおかつ30人宿泊できる図書館という課題です。今2週間経ちましたが、学生たちは地形や気候、周辺施設の取組、近隣のイベントや活動、組織、その他事例など、いろいろと調べています。建築計画的に建物を考える上で敷地も決まっています、エリアとしての方針も決まっていますので、そんなに研究しなくてもいいのかもしれませんが、こういうランドスケープの中に立つ建物ということで、こういうスペースの中にこういう景観で建つ建物ということを書いていただいたほうがいいのかと思います。また、学生たちは仙台市の景観条例について当然調べてくるのですが、仙南地域広域景観計画とかありますが、全体の計画としてこの場所がどんな景観としてとらえられているのかであるとか、そういうことなどをもしかしたら反映されて行かないといけないと思います。また、この町の歴史として、正面に大手門があったであるとか学生たちも調べているのですが、5章のところで、一覧として条件が書いてありますが、今回の計画の中で考慮しなければならないこと、しなくてもいいことは何かというところが知りたいです。大事なものは、これは考慮しなくてもいいですよねということがわかるかどうかです。基本計画図の中の集会所との関係性、周辺の住宅街、向かいの大手門の場所であるとか、近隣周辺の条件設定など考慮しないといけないと思います。

次に災害条件の確認とあり、ここでは計画しないという内容ですが、本当に災害が起こったときにこの施設はこれでいいのかというところについて、厳しく言うと別な計画で定めているからいいでしょというのは無責任だと思います。

諸室面積表については、機能関係図の黄色になっているところの面積が面積表の大きさになっているということでしょうか。

○委託業者

機能関係図の黄色のところの面積が諸室面積表の面積になっているかということ、それではありません。機能関係図は、あくまでも大きさを表しているのではなく、機能同士の関係性を表している図なので、その辺りは注意していただければと思います。

○平岡委員長

例えば黄色いところは、この面積表の交流コーナーだけではなく、一般開架、閲覧コーナーやエントランスホールの一部がこの中に入っているということによろしいでしょうか。

○委託業者

そのような考え方になります。

○平岡委員長

この辺りは設計の中でまた調節ということになりますが、この内容が設計条件として一旦進むことになるのかと思います。例えば今この会議をしている部屋が200㎡程度だと思いますが、エントランスホール165㎡でいろいろな形になると思いますが、規模感的にどうかなとも思っています。

最後ですが44ページの概算事業費のところですが、昨今の事情から事業費が増額することが見込まれるということは、増額される予定ということではないでしょうか。13.5億で進めると書いてあったと思ったのですが、町と調整が取れているのであれば大丈夫です。

長くなりましたが、私のほうからは以上です。

○山崎アドバイザー

基本計画書の位置づけとして、基本構想がもとにあって、この基本計画から基本設計に進んでいくということになります。基本設計でわかんなくなったら、基本計画に戻ります。基本計画でわからないところは基本構想に戻ることになります。皆さんからいくつか重要な観点がありましたが、協働という重要なコンセプトが薄くなってしまったということもありました。これはソフトだからハードとは直接関係ないかもしれないけど、この小さな町の図書館で、お金や人が限られている中で、協働というものを意識していかなければ運営していけないと思います。ただ、ボランティアという言葉在前面に出していいかというのと、ボランティアという言葉は、今はあまり使いたくない言葉で、どちらかというところ協働という言葉を使ったほうがいいのかなと思います。今日出た意見は、ほとんど基本構想では網羅してあります。それは基本計画をまとめる中で薄れてしまったとのことなので、私も加筆修正が必要なのかなと思いました。

ハード面でもあきらめなくてはならない機能が出てくるときに、一番大事なところを残さなくてはならないとなったときに特徴のない建物になってしまうかもしれません。わたしはずっと柴田町は小さい町なので、協働というところを特徴にしていくべきだと思うので、その部分をもう少し加筆したほうがいいのかなと思いました。

また、最後に平岡先生が指摘いただいたランドスケープの観点もとても大事なと

ころだと思えます。

それから、蔵書計画も計画の中に入っていません、蔵書計画はこれからどれくらいの予算でどのように資料を増やしていくかというのですが、これも特徴の一つになります。柴田町にとってこういった本が必要かということが入っていないと、基本計画にならないと思えます。

大きい図書館はこの小さな町では無理だと思えます。ですが、住民と協働して工夫された図書館であれば、日本一になれると思えますので、皆さまの意見を書き加えていかなければと思えますので、継続的にアドバイスしていきたいと思えます。

4 連絡事項

基本計画策定までの流れの説明

5 閉会のあいさつ

6 閉会